

『坊っちゃん』のことなんて、 何も知らなかった

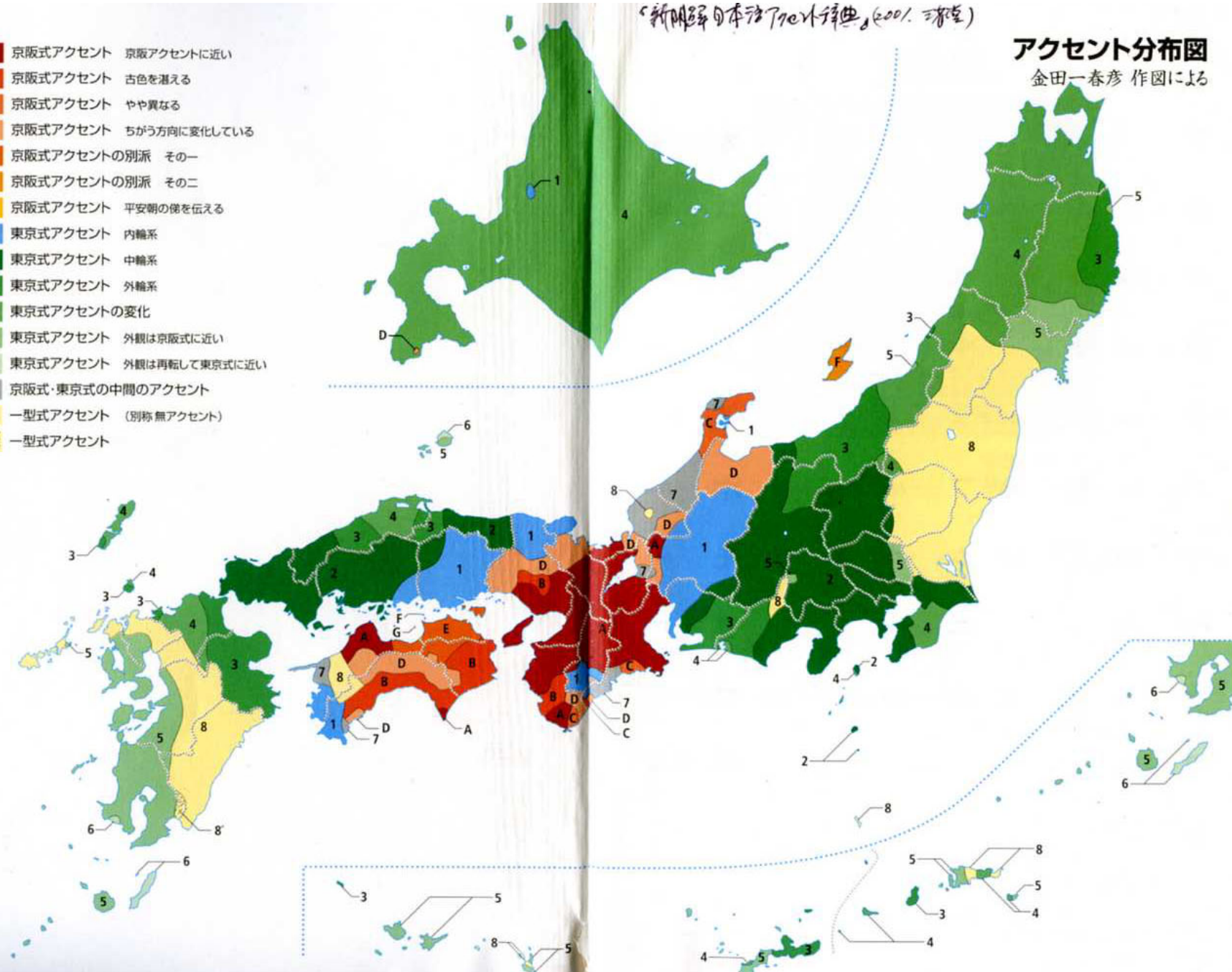
2016年度 教育学部FDシンポジウム 2016年10月27日

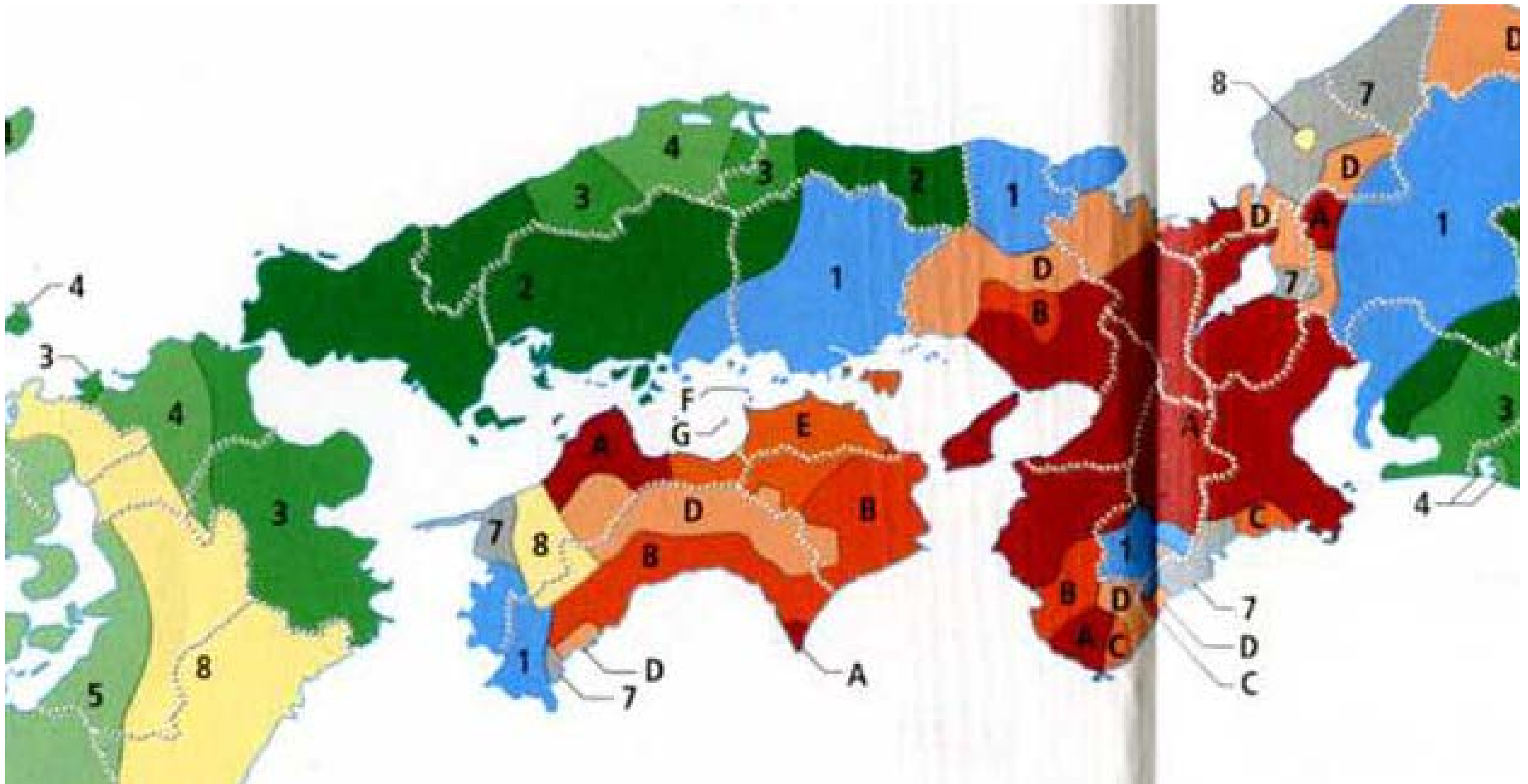
国語教育 佐藤 栄作

アクセント分布図

金田一春彦 作図による

- A 京阪式アクセント 京阪アクセントに近い
- B 京阪式アクセント 古色を湛える
- C 京阪式アクセント やや異なる
- D 京阪式アクセント ちがう方向に変化している
- E 京阪式アクセントの別派 その一
- F 京阪式アクセントの別派 その二
- G 京阪式アクセント 平安朝の俤を伝える
- 1 東京式アクセント 内輪系
- 2 東京式アクセント 中輪系
- 3 東京式アクセント 外輪系
- 4 東京式アクセントの変化
- 5 東京式アクセント 外観は京阪式に近い
- 6 東京式アクセント 外観は再転じて東京式に近い
- 7 京阪式・東京式の中間のアクセント
- 8 一型式アクセント (別称 無アクセント)
- 8 一型式アクセント





実家に『坊っちゃん』はあったけれど、 読んでいなかったのかもしれない。

本学への採用が決まったとき、「アクセントの宝庫だから、君にぴったりだ」と言われた。

- ・日本語、日本文学、日本史などは、地域とつながる研究テーマが必ず存在する。
特に、私の場合は、讃岐アクセントを研究していた。
地域研究の難しい分野の先生方にとっては、まったく「うらやましい」領域。
それができていない現状は、「反面教師」にもならず、本日の話題提供者としては不適。
適任者は、他にいる。
- ・今回、私が指名されたのは、若手だと発言しにくいことを、
ずけずけ言っても許されるベテランという役回りと理解。

地域ならではの研究テーマ・研究が、 われわれを救ってくれる。

地域は、われわれが研究者で有り続けることを支援してくれると考えている。

「幅をひろげてくれる」は言い過ぎの場合が多い。そんなにいろいろできない。

誤解を恐れずに言うなら、「三流にならない」ために地域の特色ある研究がある。

一流・・・どこの大学も招きたい・来て欲しいと思う大学教員

三流・・・一流の逆の大学教員

採用された段階では、皆、見どころあり(三流は採用されない)。

着任してから、注意すべきは、その大学のそのポジションだからあてがわれる仕事を、己の力を認めてくれたから来た仕事だと勘違いすること。

いわゆる、広義の「当て職」

地方国立大学の教員の場合、他に大学・研究所等が少ないため、いくつかの仕事が来る。

さて、愛媛の方言アクセントの調査研究が、 まず果たすべき任務だった。

- ・方言アクセント調査……少しはやりました。すごく難しい。魚島、高井神島、鶺島……
- ・方言調査……少しはやりました。伯方島、宇和町、愛南町、新居浜市……

愛媛の方言について、電話がかかってくる。愛媛大学の日本語学担当だから。

- ・愛媛の方言といえば、漱石の『坊っちゃん』（獅子文六、大江健三郎、司馬遼太郎……）
『坊っちゃん』の方言を知っておかないと愛媛大学の日本語学教員として恥ずかしい。



松山坊っちゃん会に入会……何年かすると顧問を頼まれる（広義の「当て職」）



『坊っちゃん』には自筆原稿（複製）があることを知る。

前の職場（女子短大）で、「丸文字」に出会って、文字に興味を持っていた。

『坊っちゃん』自筆原稿に、漱石以外の手による書き込みがあることを見つける。

実は、すでに指摘されていた。世紀の大発見ではなかったが、

文学研究ではしっかり取り上げられていない。一般には知られていなかった。

子規記念博物館の高浜虚子の資料と突き合わせ → 虚子に間違いない

『坊っちゃん』からいくつかの研究テーマが

①字体の研究

自筆原稿、筆跡 → 同一字体の実現形の違い、異体仮名、異体字

②漱石の自筆原稿の研究 『道草』などの書き潰し原稿の分析

③文学作品の中の方言 写生文と方言、役割語

④作家漱石の誕生 虚子の書入れ→子規・虚子との関係

①字体研究

2013年に単行本

2015年度、一年間、文化審議会国語部会漢字小委員会の委員

「常用漢字表の字体・字形についての指針」とりまとめ

②漱石自筆原稿 科研(研究代表) 萌芽研究、基盤研究(C)

③文学作品の方言 科研(研究代表) 挑戦的萌芽研究

「役割語」の視点を導入した写生文・「写生」の日本語学的新研究

④作家漱石 『坊っちゃん』成立論 虚子の孫稲畑汀子氏との講演 高教研国語部会で講演

『坊っちゃん』からいくつかの研究テーマが

- 足場・発射台（問題意識）と発射角度（切り込み方）さえ定まれば、
（地域に向かって）撃てば、必ず何かに当たる。
- 科研の申請では、研究テーマを地域に絡め、愛媛松山から発信することを強調
挑戦的萌芽研究が取れたのは、松山からの発信をオリジナリティーと
認めてくれたからではないか。
- 毎年、科研で人を呼び、松山坊っちゃん会の講演会として市民に還元
科研の計画を実施することが、そのまま
地域の人々に喜ばれる（地域貢献）。
わが松山坊っちゃん会は、講演者の足代も出せない。

『坊っちゃん』出自の研究テーマと 教員養成・授業とのつながり

- ①字体の研究 → 漢字の構造 → 漢字学習
→ 漢字の正誤 → 漢字学習 → 「初等国語」他
- ②自筆原稿の研究 → 表記ルールの変化・変遷
→ 現代の表記ルールの相対化 → 「初等国語」他
→ 日本語表記の特性・独自性 → 「日本語概説」
- ③文学作品の方言 → 役割語としての方言
→ 役割語の視点からの国語教材の読み直し
→ 「省察研究」他

いずれも「学習指導要領」の「伝統的な言語文化と国語の特質」に関わる。

- ④作家漱石 → 地域に関わる人物 → 「えひめ学」担当(附高連携、共通教育)

二流に踏みとどまることは、第一に自分のため。
そして、組織にとってもマイナスではない。

方言の宝庫愛媛の方言研究ができていないのに、『坊っちゃん』のお陰で、三流を回避？
アラ還の日本語学会の編集委員（一流なら40歳代？） → 社会貢献

松山に来るまで、『坊っちゃん』は読んでなかったのに、
今では、『坊っちゃん』成立論。

— 昨年はBS日テレ（余貴美子さんと） → 自己満足・社会貢献

今年、中国からの留学生と中国語訳との比較 NHKちきゅうラジオに出演

来年1月から3月、愛大ミュージックで漱石没後100年記念『坊っちゃん』の110年展示

次年度、韓国語訳『坊っちゃん』を研究する法文学部の池貞姫先生と共同研究の予定

愛媛方言・方言アクセントの研究はできていないんです。すみません。

坊っちゃん曰く、

「そんなものが出来る位なら四十円でこんな田舎へくるもんか」